

第25回 ゴミパイプライン協議会

次第

日時:令和元年6月15日(土)

午前10時00分～12時00分

場所:芦屋市環境処理センター会議室

記

議題

- 1) パイプライン運転報告について (資料1)
- 2) 今年度の輸送管補修工事の予定 (資料2)
- 3) パイプライン施設及びごみに関するアンケート結果報告書と提案 (資料3)
- 4) 朝の定時運転の変更案について (資料4)
- 5) その他
- 6) 今後の協議会等のスケジュール(予定)

配布資料

- | | |
|-----|-------------------------------|
| 資料1 | パイプライン運転報告 |
| 資料2 | 輸送管補修工事の予定 |
| 資料3 | パイプライン施設及びごみに関するアンケート結果報告書と提案 |
| 資料4 | 朝の定時運転の変更案について |

以上

【資料1】

パイプライン運転報告（トラブル等対応記録）4月16日～6月10日までの記録

◆システム異常発報対応

システムが異常を発報したものであり、全地域もしくは系統もしくは個々の機器が停止したものです。

※原価は発生していない費用です。
※目安単価（50円/分）で算出しています。

No.	月	日	曜日	発生時刻	定時運転 (朝) 自動運転 (夕方)	センター /ローカル	町名	箇所	機器名	状態	レベル	作業内容	作業人 数(人)	作業時 間(分)	労務費 (円)	外部費用 (円)	住民起因	備考
1	4	19	金	5:40	○	ローカル	若菜町	#8019	スクリュウ	停止異常	A	モニタ確認。 故障解除で復旧。	1	5	250	0		
2	4	19	金	16:37	○	ローカル	瀬見町	#12011	排出弁	閉異常	A	モニタ確認。 故障解除で復旧。	1	5	250	0		
3	4	22	月	5:00	○	ローカル	緑町	#11011	吸気弁	閉異常	B	現場確認。 弁にこみかみ込み。昼後 復旧。	3	40	6,000	0		
4	4	23	火	7:58	×	ローカル	浜風町	#1021	吸気弁	閉異常	B	現場確認。 弁にこみかみ込み。昼後 復旧。	5	45	11,250	0		
5	4	23	火	10:48	×	ローカル	陽光町	#30038	ドラム	停止異常	A	モニタ確認。 故障解除で復旧。	2	1	100	0		
6	4	25	木	8:29	○	ローカル	瀬見町	#12031	吸気弁	閉異常	A	モニタ確認。 故障解除で復旧。	4	1	200	0		
7	4	25	木	20:32	×	ローカル	陽光町	#30178	ドラム	停止異常	A	モニタ確認。 故障解除で復旧。	1	5	250	0		
8	4	26	金	15:54	×	ローカル	陽光町	#30078	ドラム	停止異常	A	モニタ確認。 故障解除で復旧。	1	1	50	0		
9	4	27	土	16:01	×	ローカル	浜風町	#6011	排出弁	閉異常	A	モニタ確認。 故障解除で復旧。	1	3	150	0		
10	5	1	水	8:15	×	ローカル	緑町	#11101	排出弁	こみぶら下がり	B	現場確認。 残部こみなし。自然解消と思われる。	2	15	1,500	0		
11	5	2	木	14:31	×	ローカル	緑町	#11011	吸気弁	閉異常	B	現場確認。 弁にこみかみ込み。昼後 復旧。	2	38	3,800	0		
12	5	7	火	8:29	×	ローカル	瀬見町	#12031	排出弁	閉異常	A	モニタ確認。 故障解除で復旧。	1	5	250	0		
13	5	8	水	6:29	○	ローカル	瀬見町	#12041	吸気弁	閉異常 システム停止。	A	モニタ確認。 故障解除で復旧。	1	5	250	0		
14	5	10	金	7:39	×	ローカル	若菜町	#8019	排出機弁	閉異常	B	現場確認。 弁体を清掃・給油後復旧。	5	105	26,250	0		
15	5	10	金	8:13	×	ローカル	瀬見町	#12031	排出弁	閉異常	B	現場確認。 制御室内機器・基板等点検後復旧。	2	45	4,500	0		
16	5	11	土	16:06	○	ローカル	高浜町	#7019	排出機弁	閉異常	A	モニタ確認。 故障解除で復旧。	1	1	50	0		
17	5	13	月	6:10	○	ローカル	浜風町	#1011	吸気弁	閉異常	B	現場確認。 各機器・制御盤内点検後復旧。	2	16	1,600	0		
18	5	20	月	17:13	○	ローカル	陽光町	#30038	ドラム	停止異常	B	現場確認。 ドラム正転・逆転で解消。	2	17	1,700	0		
19	5	23	木	7:44	×	ローカル	陽光町	#30188	ドラム	停止異常	B	現場確認。 ドラム正転・逆転で解消。	2	17	1,700	0		
20	5	25	土	15:38	×	ローカル	緑町	#11031	吸気弁	閉異常	A	モニタ確認。 故障解除で復旧。	1	1	50	0		
21	5	3	月	5:54	○	ローカル	若菜町	#800	遮断弁	閉異常	A	モニタ確認。 故障解除で復旧。	1	2	100	0		
22	5	5	水	8:50	×	ローカル	陽光町	#30068	ドラム	フリッジ	B	現場確認。 レベル計動作に不良あり。 レベル計等清掃・点検後復旧。	2	30	3,000	0		
23																		
24																		
25																		
													合計	399	63,350	0		

※「システム停止」とは、センターの監視制御システムが停止したものです。その他についても、その投入口もしくはその系統が停止しています。

※作業時間は、現場までの行き帰りの時間も含まず。

※定時(運転)中かどうかは、異常発生時刻より判断。

※運転時間変更により、実務時間外に定時運転を設定しているため、時間外の作業が発生している。

★(4月16日～6月10日)の発生件数 H29:26件 / H30:59件 / R1:22件

【資料1】

◆利用者からの連絡対応

実際は発生していない費用です。
※目安単価（50円/分）で算出しています。

利用者からの電話連絡により、対応したものです。

No.	月	日	曜日	連絡時刻	センター/ローカル	町名	箇所	機器名	状態	レベル	作業内容	作業人数(人)	作業時間(分)	労務費(円)	外部費用(円)	住民起因	備考
1	16	火		8:10	ローカル	緑町	#11041	カギ	閉まらない	B	現場確認。 電気錠ニードルSWの不良。 位置調整・点検後復旧。	3	45	6,750			
2	22	月		14:30	ローカル	新浜町	#3139	表示ランプ	点滅を繰り返している	B	現場確認。 配線の接触不良。再接続後、復旧。	2	35	3,500			
3	26	金		12:55	ローカル	浜風町	#3051	表示ランプ	点滅を繰り返している	B	現場確認。 ヒューズの接触不良。再接続後、復旧。	3	30	4,500			
4	27	土		10:00	ローカル	浜風町	#3032	カギ	まわりにくい	B	現場確認。 錠穴に引っ掛かりあり。 コインマスター交換後復旧。	2	45	4,500			
5	30	火		11:30	ローカル	緑町	#11101	バケツ	開かない	B	現場確認。 バケツ下ごみ詰りあり。 除去後、復旧。	1	35	1,750			
6	30	火		15:30	ローカル	浜風町	#6011	表示ランプ	滅灯	B	守集室から電話あり。 送電の滅灯だと思われる。 近時運転実施で解消。	1	5	250			
7	9	木		14:15	ローカル	高浜町	#5089	バケツ	誤投入	A	電話を受けるも5分後に電話と連絡あり。	1	5	250		★	
8	9	木		15:20	ローカル	瀬貝町	#12011	バケツ	無理に開めた	B	現場確認。 特に問題なし。	2	15	1,500			
9	13	月		10:45	ローカル	高浜町	#4029	バケツ	誤投入 (車のカギ)	B	現場確認。 貯留槽内検査しましたが発見できず。 市民に説明して作業終了。	3	40	6,000		★	
10	13	月		15:30	ローカル	新浜町	#3081	バケツ	動かない	B	現場確認。 バケツ下ごみ詰りあり。 除去後、復旧。	2	15	1,500			
11	16	木		9:00	ローカル	緑町	#11101	カギ	抜けない	B	現場確認。 錠穴に引っ掛かりあり。 コインマスター交換後復旧。	3	50	7,500			
12	17	金		11:40	ローカル	高浜町	#4019	バケツ	誤投入 (ハガキ)	B	現場確認。 貯留槽内から取出し、市民へ返した。	3	25	3,750		★	
13	20	月		9:40	ローカル	新浜町	#3159	カギ	まわりにくい	B	現場確認。 錠穴に引っ掛かりあり。 コインマスター交換後復旧。	3	50	7,500			
14	27	月		9:20	ローカル	浜風町	#1012	バケツ	閉まらない	B	現場確認。 バケツ下ごみ詰りあり。 除去後、復旧。	1	15	750			
15	29	水		8:10	ローカル	浜風町	#3054	バケツ	閉まらない	B	現場確認。 バケツ下ごみ詰りあり。 除去後、復旧。	3	15	2,250			
16	29	水		10:00	ローカル	緑町	#11129	バケツ	開かない	B	現場確認。 配線の接触不良。再接続後、復旧。	1	30	1,500			
17	4	火		9:10	ローカル	緑町	#11149	バケツ	詰まらせた	B	現場確認。 バケツ内に大型に洗剤箱あり。 取り出して、復旧。	1	20	1,000		★	
18	5	火		10:20	ローカル	若葉町	#8069 #10029	カギ	まわりにくい	B	現場確認。 巡回点検時に#10029は給油後、復旧。 #8069はコインマスター交換後復旧。	2	20	2,000			
19	5	水		15:35	ローカル	若葉町	#8069	バケツ	誤投入 (自転車のカギ)	B	現場確認。 貯留槽内検査しましたが発見できず。 市民に説明して作業終了。	3	45	6,750		★	
												合計	540	63,500			

※作業時間は、日程に記載されていないものは、概ねの時間を聞き取って記入しています。

★(4月16日～6月10日)の発生件数 H29:7件 / H30:14件 / R1:19件

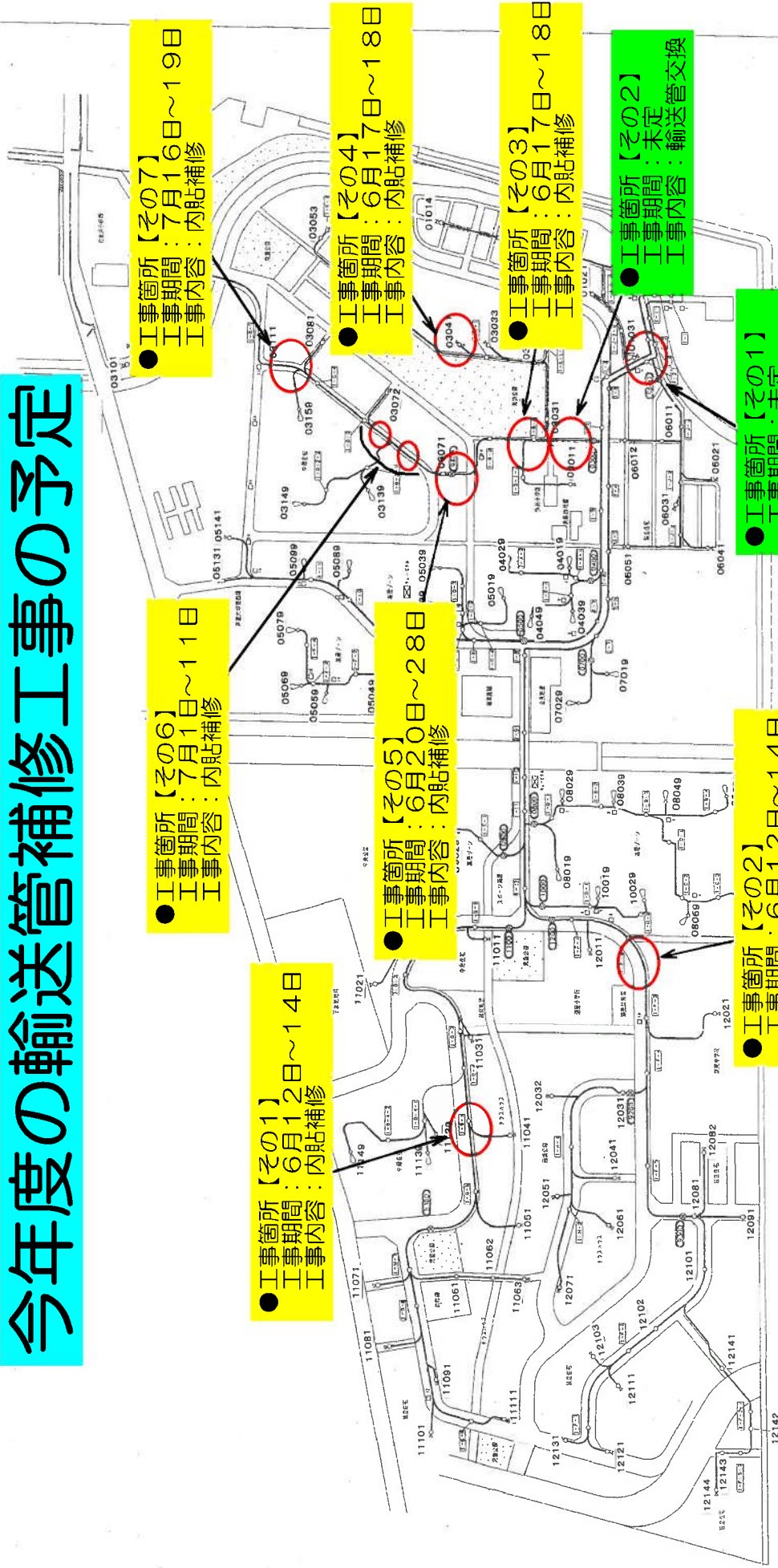
◆巡回及び定期点検で発見された不具合等

巡回及び定期点検時に発見されたもので、軽微なもの(バケツやショックアブソーバーにごみ引取り路作業等)は除いています。

No.	月	日	曜日	センター/ローカル	町名	箇所	機器名	状態	レベル	作業内容	備考
1	14	火		ローカル	若葉町	#9019	排水ホース	排水ホースが短い	B	現場確認。 排水ホースの延長を行った。	
2	15	水		ローカル	浜風町	1-K-2	マンホール	ゴムパッキン付直し	B	現場確認。 ゴムパッキンの付直し。	
3	5	木		ローカル	浜風町	専用溝	輸送管	穴あき	B	現場確認。 水中ボンドで補修済み	別紙写真①
4	21	火		ローカル	瀬貝町	共同溝 #12103	輸送管	穴あき	B	現場確認。 水中ボンドで補修済み	別紙写真②
5	28	火		ローカル	新浜町	#3113	水中ポンプ	フロートSW不良	B	現場確認。 フロートSWの交換。	
6											
7											
8											
9											
10											

※年次点検は、年間を通して点検箇所を定めて計画的に行っているため、年に一度しか点検しない箇所もある。

今年度の輸送管補修工事の予定



● 工事箇所【その7】
 工事期間：7月16日～19日
 工事内容：内貼補修

● 工事箇所【その6】
 工事期間：7月1日～11日
 工事内容：内貼補修

● 工事箇所【その1】
 工事期間：6月12日～14日
 工事内容：内貼補修

● 工事箇所【その4】
 工事期間：6月17日～18日
 工事内容：内貼補修

● 工事箇所【その5】
 工事期間：6月20日～28日
 工事内容：内貼補修

● 工事箇所【その3】
 工事期間：6月17日～18日
 工事内容：内貼補修

● 工事箇所【その2】
 工事期間：未定
 工事内容：輸送管交換

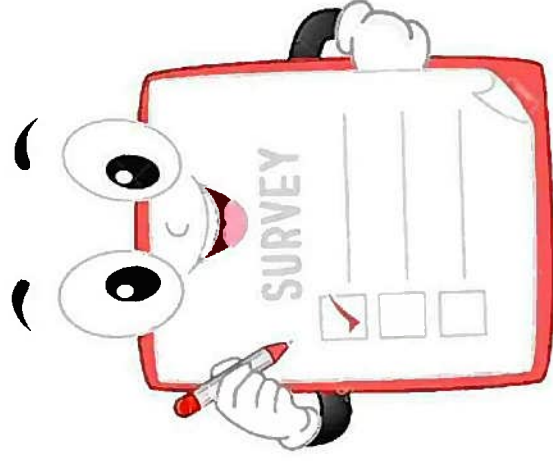
● 工事箇所【その1】
 工事期間：未定
 工事内容：輸送管交換

● 工事箇所【その2】
 工事期間：6月12日～14日
 工事内容：内貼補修

⇒ R1 輸送管内貼補修工事予定箇所

⇒ R1 輸送管交換工事予定箇所

パイプライン施設及びごみに関するアンケート結果報告書と提案



令和元年 5 月

ゴミ収集パイプライン利用者の会

— 目次 —

1	基本情報—調査の目的、対象、回収枚数など		3P
2	アンケート結果を踏まえての提案		4P
3	属性—どんな人が暮らしているのか	<ol style="list-style-type: none"> 1. 性別 2. 年代別構成 3. 世帯人数 4. 住居期間(年数) 	6P 7P 8P 9P
4	ごみの捨て方—どんな人、どの時間帯に、週何回捨てているのか	<ol style="list-style-type: none"> 1. ごみを捨てる人は決まっているか、それは誰か 2. ごみを捨てる回数とその時間帯 	10P 11P
5	パイプライン施設に関する満足度、老朽化の認知、現在の問題点	<ol style="list-style-type: none"> 1. パイプライン施設に利用者は満足しているのか 2. 老朽化を知っているか 3. 利用者が感じている現在のパイプライン施設の問題点 	12P 13P
6	コミュニケーションの道具としてのHPの認知	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の会のHPはどの程度認知されているのか 2. 芦屋市のHPはどの程度認知されているのか 	14P
7	ごみ一般に関する調査	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者が処分に困っているごみとは 2. ごみ分別の認知は 3. 減量化・資源化への興味と利用者の行動 4. 集団回収の状況は 5. 芦屋市の減量化施策を知っているか 	15P 16P 18P 20P 21P
8	回答者の意見・要望・困っていること等と利用者の会の見解	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者の会の見解 2. 回答者の意見・要望・困っていること 	22P

(1) 目的:

1. このアンケートの目的は、今後のパイプライン施設およびごみ処理の検討にパイプライン利用者の意見を反映するために実施した。更に、このアンケート結果を踏まえたパイプライン施設及びごみ問題についての提言をおこなう。
2. また、このアンケートを利用者自ら作成することにより、啓蒙活動の一環としてパイプライン施設やゴミに関する意識向上を目指した。

■ 調査対象

芦屋浜・南芦屋浜に住み、パイプライン施設を利用している世帯

■ 期間

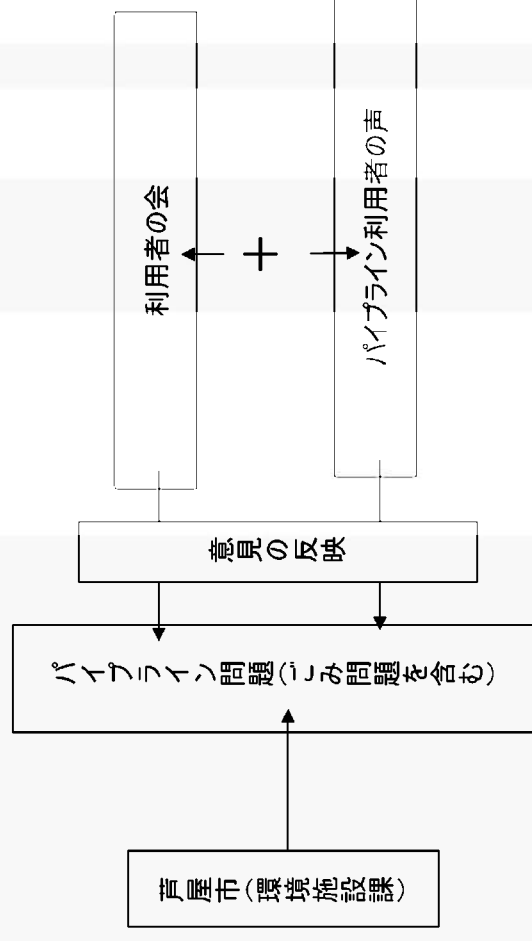
2019年1月24日～3月21日

■ 調査方法

各世帯にアンケート用紙を直接配布

■ 回収枚数

1335枚(配布枚数 6713枚) 回収率:20%



(2) アンケート結果を踏まえての提案—今後の検討課題

1. 長期的視点からの提案

- ・ 属性分析を踏まえると、超高齢化と少世帯化の増加にともない、今後新しい課題が発生してくると予想される。具体的には、①在宅医療拡大に伴う家庭からの医療系ごみの増加、②認知症の増加に伴い不法投棄、③集積場所までごみ袋を運んでいくことの困難さ、④高齢者にわかりやすい多チャンネル(HP を以外)を通じた情報提供の工夫、⑤外国人住居者へのごみ情報の提供等。これらの状況変化に対応した新しい対策が今後の長期的な検討課題となる。
- ・ 住居は「終の棲家」という考え方が進み、住居移動が少ない状態となっている。この傾向は、少世帯化の原因のひとつとして考えられ、このままでは、10年後・20年後は空き家問題が浮上してくると予想され、中古住宅の流通促進や空き家活用に向けた行政、地域住民、関係団体等による連携と適切な役割分担の仕組みづくりが今後必要と考えられる。

2. パイプライン施設への提案

- ・ 利用者が感じているパイプライン施設の問題点として①故障が多い、②日曜日にごみが捨てられない、③赤ランプが多い の3点がある。
 - (1) 故障対策としては、老朽化しているパイプラインを条例で定められた期間まで使用するために、大切に使用しなければならぬことを利用者に徹底することで利用者起因のパイプラインが詰まることを「0」化していく。
 - (2) 経年劣化による輸送管の豪雨対策と電気計装への対策を協議会で継続的検討し、故障時間をできるだけ短くすることが大切である。
 - (3) ごみを「毎日捨てている世帯」が全体の65%を占めており、日曜日の稼働の要望が多いことから、経費削減を考慮しつつサービスレベルをどのようにしていくのか再検討が必要。
 - (4) 赤ランプを少なくするための対策は、現在の6箇所の赤ランプでごみを引く方式や日曜日の問題も含めてサービスレベルと電気代削減のバランスの再検討が必要と考えられる。なお、出勤時にごみを捨てる人は9%(149名)あった。ごみを放置する人は、出勤時に赤ランプである場合、バスに乗り遅れないようにそのごみを放置する傾向があるので、この時間帯は極力赤ランプを避けなければならない。
- ・ 今回のアンケートでは①新しく入居する人へのパイプラインの説明書の配布や説明会の実施、②死亡された方の遺品処分方法への情報提供
- ③外国人へわかりやすい説明書の配布 という意見が出ており、利用者起因のトラブル防止も兼ねて、検討の必要がある。
- ・ 利用者への適切で正確な情報提供の手段として、HP の認知が十分でない状況では、重層的な手段でコミュニケーションを取る必要があると考えられる。具体的には、投入口を使っての情報提供、住居への直接チラシ配布(例：芦屋パイプライン通信など)、自治会や管理組合を通じての情報提供などに今以上取り組み必要がある。

3. ごみ一般的に関する提案

- ・ 処分に困っているごみ対策としては、①「家庭用ハンドブック」は見る人の視点の導入、例えば、ごみ別検索機能の強化(神戸市のHP ではすでに「ごみと資源のワケトン分別徹底サイト」作成)等、②容器に残っている中身の処分方法(スプレーの中身等)の詳細説明、③高齢者世帯の不要になった大型ごみの移動のしくみづくり-自治会や管理組合への相談、シルバー人材の派遣などの活用。なお、WEB 上で動く「ごみの検索システム(マルチ言語)」を利用者の会で開発し、個人や団体(自治会・管理組合)が利用できる検索システムの構築を予定している。
- ・ ごみの分別に関しては、アンケート結果では問題は見受けられないが、利用者の提案として、①新しくこの地域に住む人への啓蒙、②説明書(例「家庭要ごみハンドブック」説明文は、絵や図解を多くして、文字の大きさも変更し高齢者や外国人にも直感的にわかるものにする)こと。
- ・ ごみの資源化・減量化は、「買い物袋を持参し、レジ袋や紙袋はもらわない」が726名(28%)、「過剰包装は断る」が691名(27%)と全体の55%を占め、多くの利用者がすでに実行している。今後は具体的な方策として、①生ごみは捨てる前に水分を切る、②堆肥化する、③野菜などは無駄なく使い切る、④食べ残しをしない 等日常生活に根ざした習慣を変化させていく、具体的に細かい方策の検討が必要となる。
- ・ 集団回収制度では、超高齢化にともない、集団回収の量は今後減少していくと考えられる。問題点としては、「世話人の減少」と「荷物を運べない」ことや「若い世代の参加の促進」等の課題があり、そのため、若い世代のための曜日の設定(土日で整理して月曜日に運ぶ)、回収頻度の増加(毎週化)、常設保管庫の設置、周知徹底およびパンフレットなどの配布などの対策を集団回収に登録しているの組織(自治会・管理組合)で検討しなければならぬ。また、新しくこの地域に引っ越しをした時点での世帯での情報提供も大切となる。
- ・ 芦屋市の減量化施策の認知では、「最後まで使いきることや「生ごみの水切り」などは認知が低い。市の政策としてどの程度の認知を目指しているのか目標が定められていないので政策の評価はできないが、減量化の促進としては、この2つの政策は重要な柱と考えられるので、なんらかのさらなる情報提供や具体的な住民にとって身近な啓蒙活動が必要である。

4. 利用者からの提案

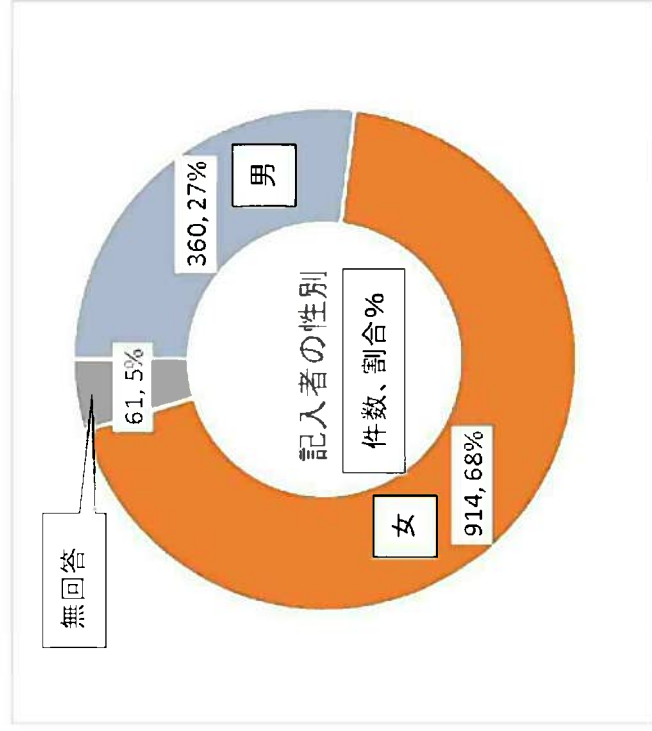
- ・ アンケート用紙には利用者からのパイプライン施設及びごみ問題に関する質問、要望、提案がなされている。「アンケートの質問や要望とそれたいする利用者の会の見解(22P～27P)」ということで、総数464件をカテゴリ化して、それに対する利用者の会の見解をまとめている。

(3) 属性分析－どんな人が暮らしているのか

パイプライン利用者（ここでは利用者およびの基本的属性（どのような人が住んでいるのか、その特徴等）を、記入者の性別、年代、世帯人数、住居形態、住居年数の観点からアンケートをおこない、分析した。

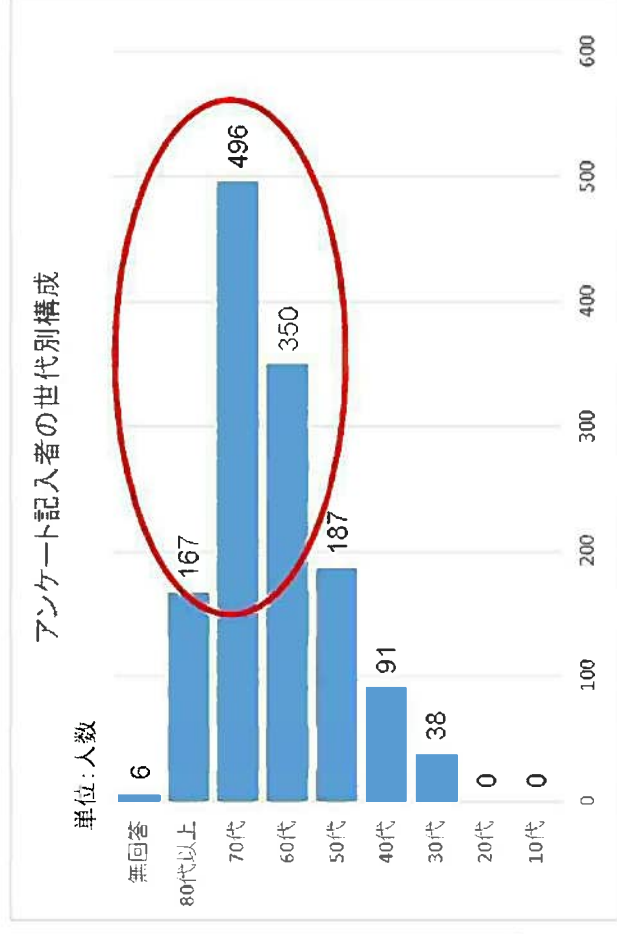
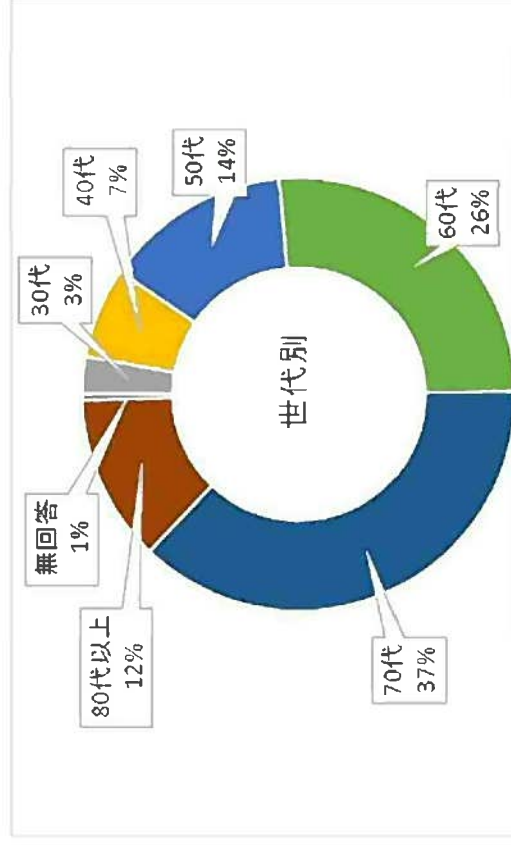
1. 記入者の性別とその年代別構成

- (1) 記入者は圧倒的に女性が多い（男性の 2.5 倍）。女性はパイプラインやごみ問題に日頃から興味を示していると考えられるが、芦屋市が平成 27 年 1 月に実施した「ごみの収集方法に関するアンケート調査について」も、男性が 32.7%、女性が 65.7%、神戸市の「家庭系ごみに関するごみに関する市民アンケート調査（平成 27 年 1 月）」でも男性が 24%、女性が 72%と同じ傾向を示している。
- (2) 年代別の比率を見ると、男性に比較して女性は、子育ても一段落した 50 代の層が多く、男性の 50 代は仕事が多忙と考えられ、70・80 代になり、定年で退職した年代では、アンケートに答える時間ができたものと考えられる。



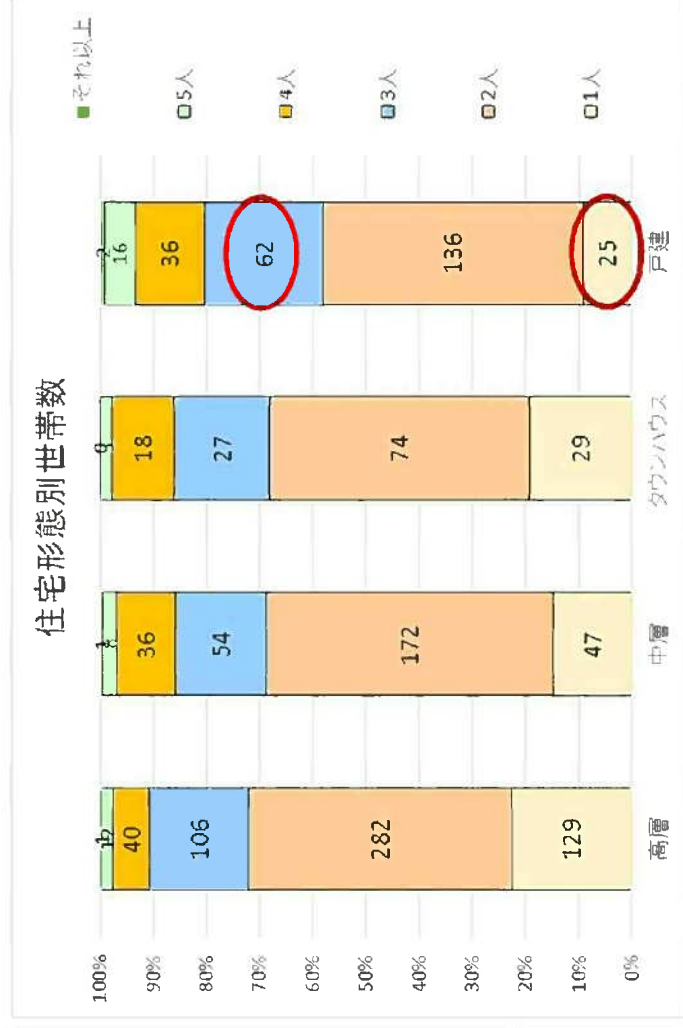
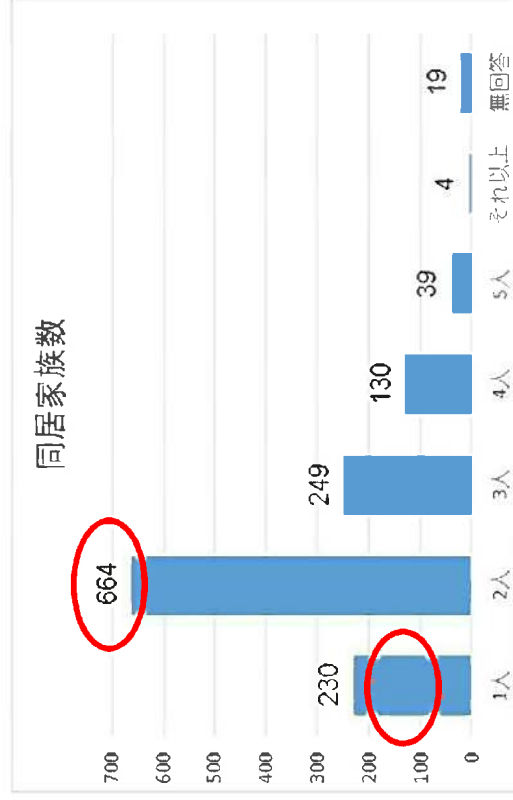
2. 記入者の年代別構成

- (1) 総人口に対して 65 歳以上の高齢者人口が占める割合を高齢化率という。世界保健機構(WHO)や国連の定義によると、高齢化率が 7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「高齢社会」、21%を超えた社会を「超高齢社会」という。戸屋市は、すでに平成 27 年度調査では超高齢化社会に入っており、今回の調査対象地域は、アンケート記入者の年代別構成では、更に急激な高齢化が進行していると考えられる。すでに利用者は「3 人に 1 人は高齢者」という時代がやってきているかもしれない。
- (2) 戸屋市が発表している「ごみの収集方法に関するアンケート調査」(平成 27 年 1 月)においても高齢者からの回答が多く、今回の調査でも、60 代、70 代、80 代以上を含めると全体の 75%を占めている。高齢者がバイプラインやごみに関し興味をもっていることがわかる。
- (3) 高齢化の進行で、今後ごみは減少してくると思われが、人口減少問題も加わり、新たな問題が出てきている。例えば、在宅医療拡大に伴う家庭からの医療系ごみの増加、認知症の増加に伴う不法投棄の増加、集積場所までごみ袋を運んでいくことの困難さ、高齢者にわかりやすい情報提供の工夫、外国人住居者へのごみ情報の提供等。これらの状況変化に対応した対策が今後の検討課題となる。



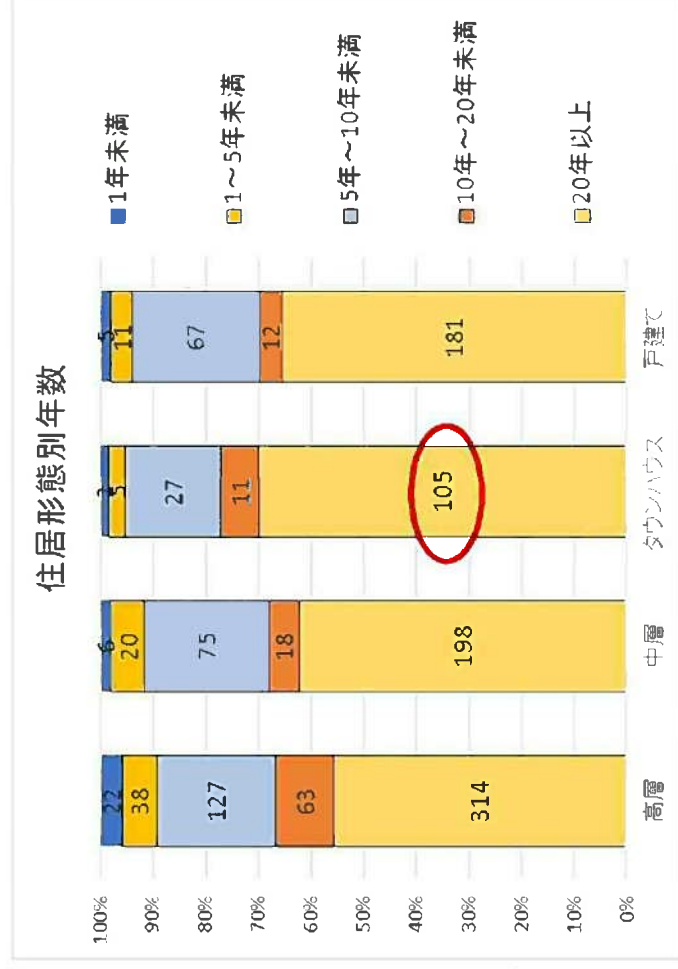
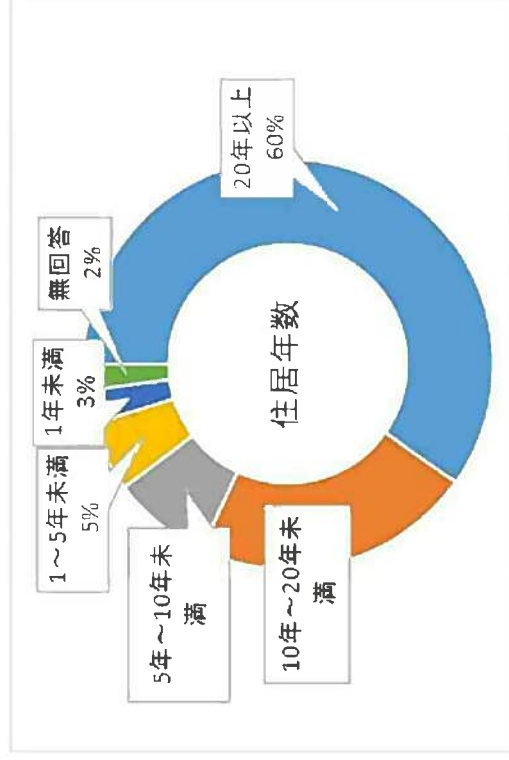
3. 記入者の世帯人数－少世帯化の状態は

- (1) 家族の世帯人数は、1人世帯が17%(230名)、2人世帯が50%(664名)と全体の67%を占めており、少世帯化が進んでいる。芦屋市の調査や神戸市の調査ではこの比率は41～42%で、芦屋浜・南芦屋浜では特に少世帯化が進んでいると考えられる。住居年数(次ページ)を考慮すると、この地域では長い期間住居し、住民の世代交代が少なく、子供は他地域へ仕事や結婚で移動した結果、このような状態になっていると考えられる。
- (2) 住居形態別をみると、戸建て住宅は、1人世帯か他の住居形態と比較して少なく、また3人世帯の割合も多い。しかしながら、全体としては、どの住居形態でも少世帯化の傾向は変わらない。



4. 記入者の住居期間(年数)－何年この地域に暮らしているのか

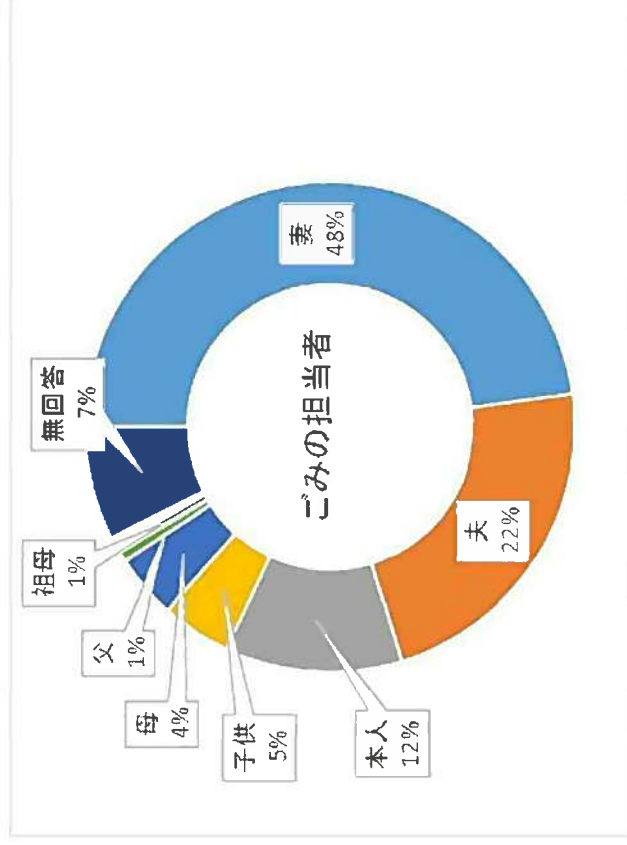
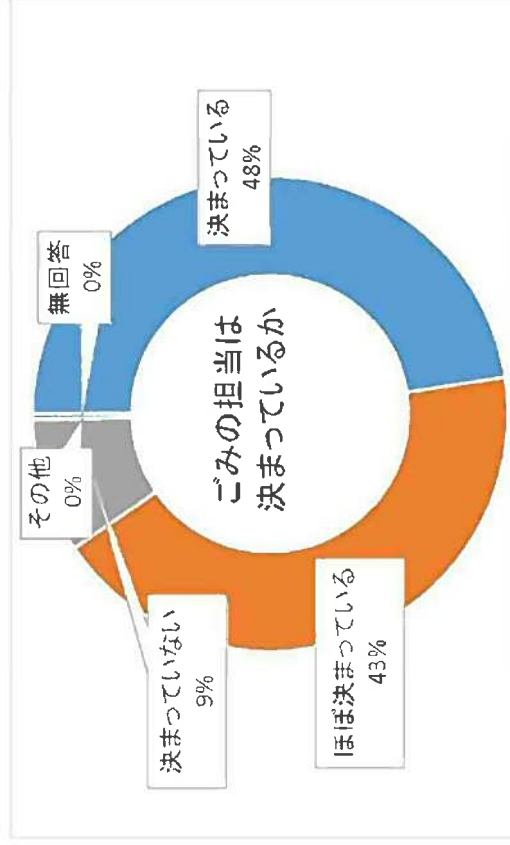
- (1) 20年以上同じ住居に住んでいる人の割合が60%あるということは、パイプライン施設の存在も含めてこの地域は「住みやすい」と考えていると思われる。また、以前は、住居は資産価値の増大という経済環境下では転売のために住居移動があったが、デフレ状態や高齢化で不動産価格が上昇しない状態では、住居は「終の棲家」という考え方が進み、住居移動が少ない状態となっている。この傾向は、少世帯化の原因のひとつとして考えられる。しかしながら、10年後・20年後は空き家問題が浮上してくると予想され、中古住宅の流通促進や空き家活用に向けた行政、地域住民、関係団体等による連携と適切な役割分担の仕組みづくりが今後必要と考えられる。
- (2) 住居形態別では、高層は1年未満の住居者が少し多く(22名)、持家(分譲)ではなく賃貸(UR、公社等)ということで、他の住居形態と比較して住む人の移動が多いと考えられる。タウンハウスでは20年以上住んでいる世帯が70%(105世帯)で、長期間住んでいる割合が多い。



(4) パイプラインへのごみの捨て方 — 誰がごみを捨てているのか

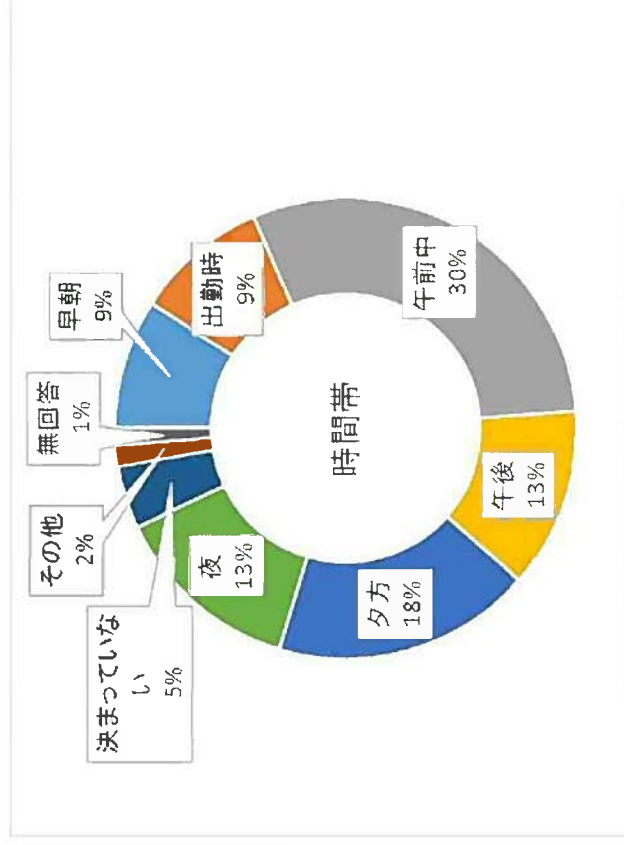
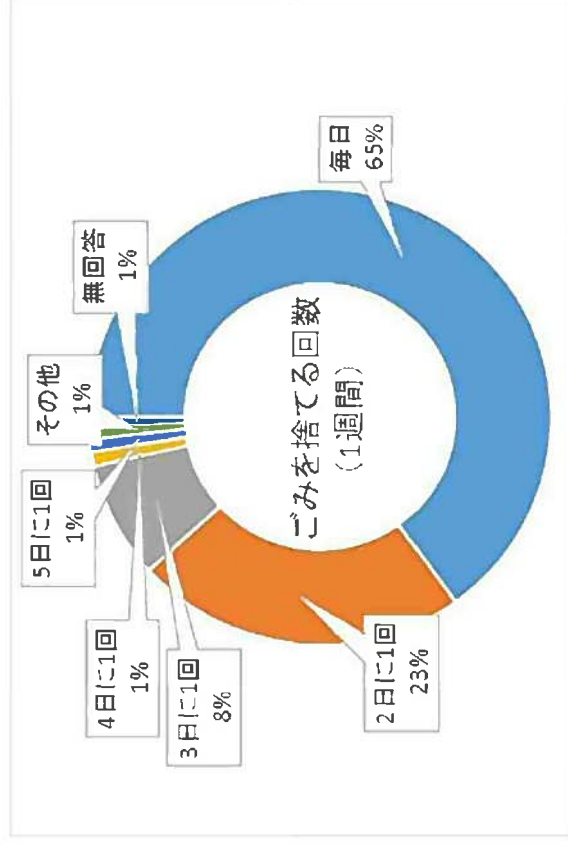
1. ごみを捨てる人は決まっているか、それは誰か

- (1) 啓蒙活動を誰にしたらよいのか(ターゲット層)を調べるためにこの調査をおこなった。
- (2) ごみを捨てる人が「決まっている」と、「ほぼ決まっている」の合計が 91%あり、啓蒙活動の中心はこれらの人たちが対象となる。各世帯でほぼ決まった人がパイプラインの投入口にごみを捨てている。
- (3) だれに啓蒙活動をしたらよいかは、妻(48%)、夫(22%)、本人(単身者)で 12%あり、合計 82%を占めているので、啓蒙活動の中心は、これらの人となる。なお、子供が 5%、父、母が 5%を占めているので、こどもの不当投棄を少なくすることも考慮しなければならぬ。具体的には、学校を通じての啓蒙活動や、啓蒙配布物は、超高齢化にともない、多くの図解や文字の大きさ等マニュアルのわかりやすさが求められる。
- (4) 多くの人がマナーを守っていると考えられるが、高齢化を考えると、今後、認知症の問題(すでにこの影響と思われる人のごみの不当投棄問題が発生している)や大きいごみや重量があるごみを持ち運びできない人が出てきているので、それらの対策を検討しなければならぬ。



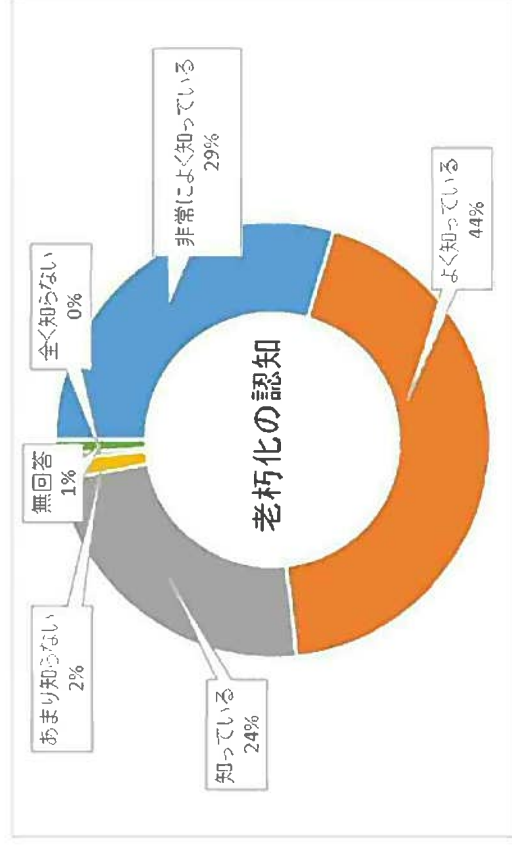
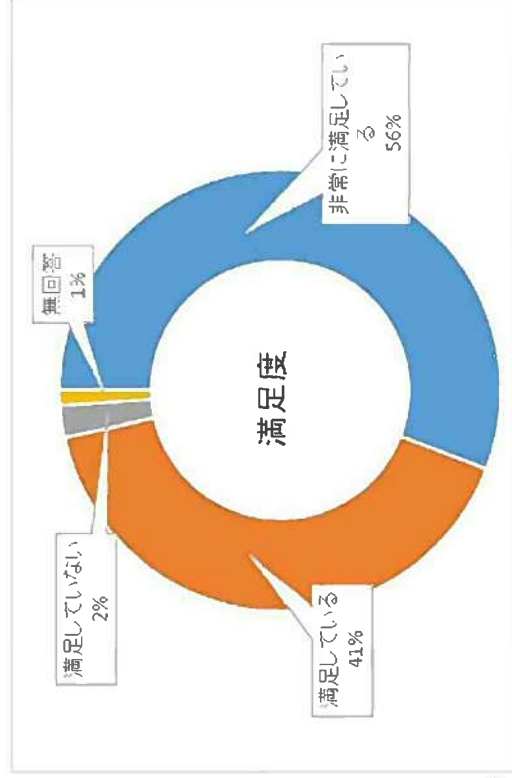
2. ごみの捨て方ーごみを捨てる回数とその時間帯

- (1) 将来のパイプライン施設の運転を毎日すべきかどうかの判断材料を収集するためにこの調査をおこなった。
- (2) 毎日ごみを捨てている世帯が、65%を占めており、これは習慣となっていると思われる。そのため、パイプライン施設を特定の日に通転を止めることは、十分な理解をもらうことが前提となる。なお、本人(単身者)の場合、「毎日」ごみを捨てる世帯は、43%と全体と比較して低い傾向にあり、2日に1回(29%)、3日に1回(18%)が多い。
- (3) 時間帯は、午前中が30%を占めていて一番多いが、それ以外はまんべんなくすべての時間帯に捨てられている。
- (4) 出勤時は9%(149名)あった。ごみを放置する人は、出勤時に赤ランプである場合、バスに乗り遅れないようにそのごみを放置する傾向があるの
で、この時間帯では極力赤ランプの状態を避けなければならない。



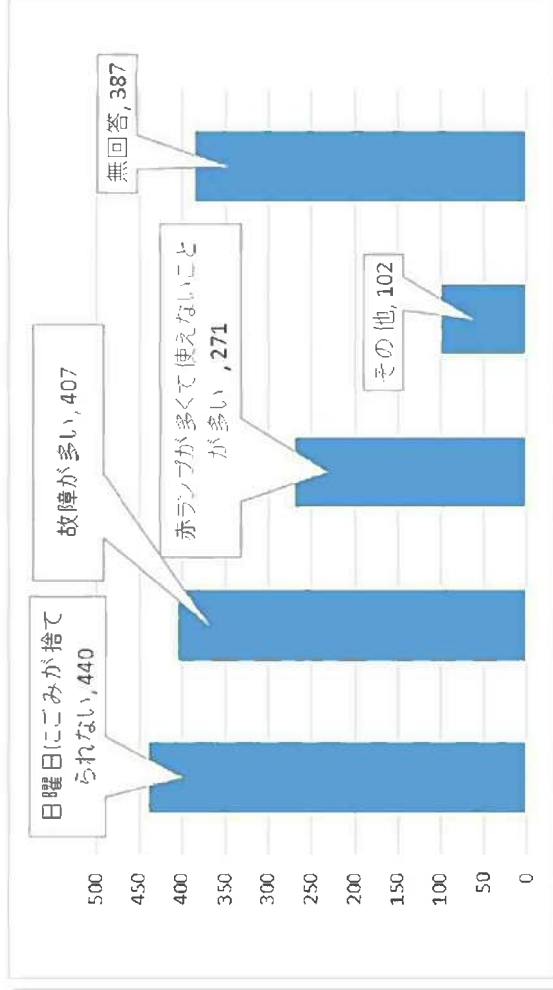
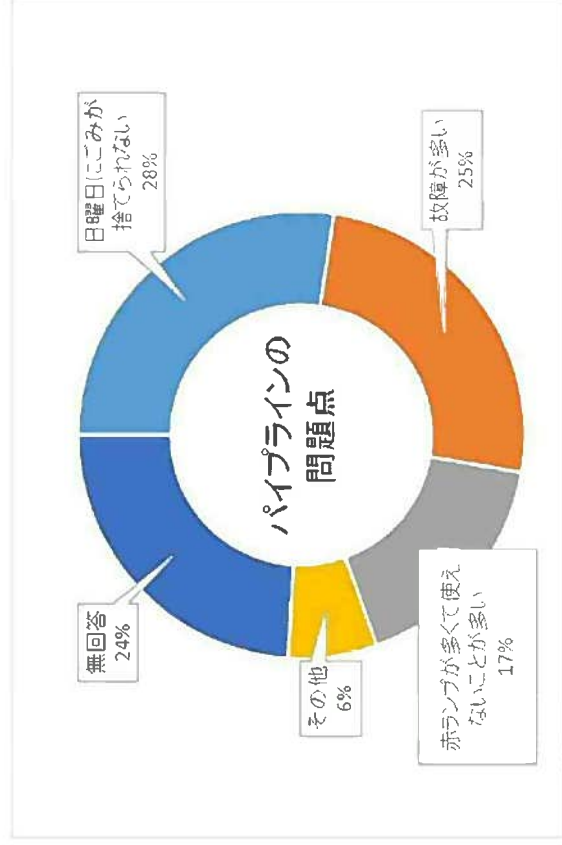
(5) パイプライン施設に関する満足度、老朽化の認知、現在の問題点

- (1) パイプライン施設の満足度では下記のグラフにあるように、97%の人が満足しており、パイプライン施設そのものは非常に評価が高い。なお、少数ではあるが2%の人が満足していない理由は、故障や赤ランプが多いとの意見をもっている人と考えられる(31名)。
- (2) 老朽化に関しては、40年経過しているパイプライン施設が「経年劣化で老朽化」していることをほとんどの人が知っている(97%)。このことは、過去の配布チラシや説明会の開催が有効であったと考えられる。今回「いつでもごみが捨てられる安心のパイプラインの使い方 保存版」を各住戸へ6713枚配布し、具体的にパイプラインを語ませた写真やその原因、その補修の大変さなどの情報提供をしているので、利用者には十分に老朽化は浸透している。
- (3) 今後もパイプライン施設の状況を金額、写真などでわかりやすく利用者に伝えていく必要があり、しいては、「パイプラインを大切に使用しなければならぬ」という利用者の意識を拡大させなければならない。
- (4) なお、「あまり知らない」人が2%いるが、これは最近、芦屋浜または南芦屋浜に転勤などで住んでいる人たちと考えられる。これらの人に対するパイプラインの情報提供、啓蒙活動が必要となる。
- (5) ポイントは、この老朽化しているパイプラインを条例で定められた期間まで使用するために、大切に使用しなければならないことを利用者に徹底することと利用者起因のパイプラインが詰まることを「0」化していくことが重要となる。



現在のパイプライン施設の問題点(複数回答)では、

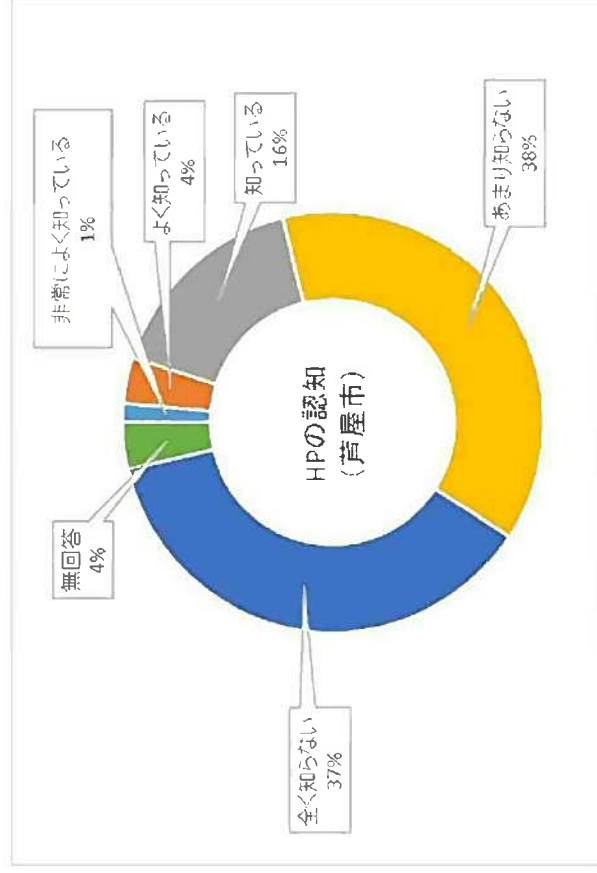
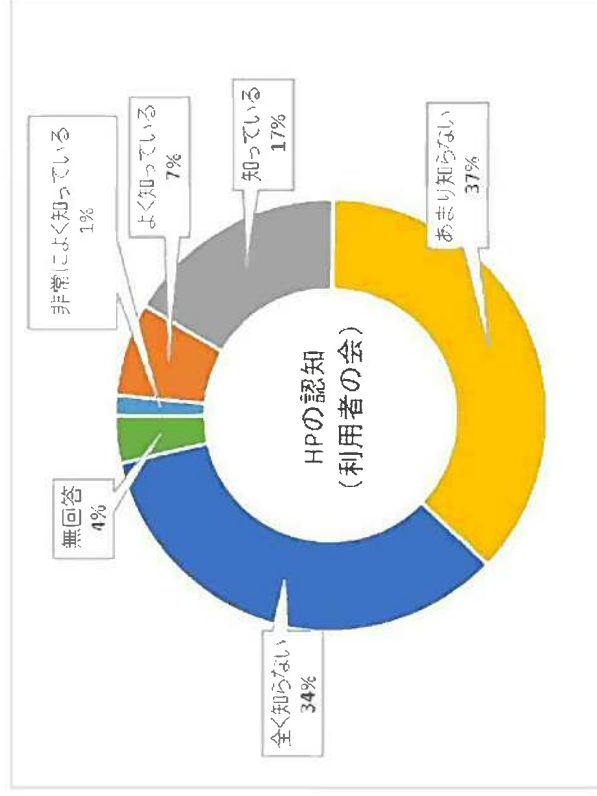
- (1) 問題点としては、「日曜日にごみが捨てられない(28%)」と「故障が多い(25%)」が多くを占めている。
- (2) まず、「故障が多い」ということに関しては、豪雨によるパイプライン施設が長期間使用できなかったこと(芦屋浜地区は一部で3ヶ月間)、投入口や輸送管が利用者起因でごみ詰まりが発生し、使用できなかったことの2つが考えられる。
- (3) 故障対策は、補修時間短縮対策を実施するが、梅雨や台風時の漏水問題は再発すると考えられるので、継続的な対策の検討と利用者が故障の原因を作っている「情報を的確に利用者に知らせる必要がある。輸送管の詰まりの多くは、利用者起因であることやそのために多くの税金がかかることを利用者に継続的に伝えなければならぬ。
- (4) 日曜日の運転に関しては、現在は年間250万の費用削減のために日曜日は満杯になると投入口が使用できなくなる。グラフでは、これが不便だと感じている利用者が多いことを示している。日曜日にゆくりごみを出したい要望が強いと考えられ、現在の方法を継続するか、又は他の方法を考えるか、ワーキング・グループでの検討が必要である。
- (5) 赤ランプが多いという点に関しては、現在6箇所赤ランプがいたらごみを引く運転をしているが、日曜日の赤ランプの多いことも考慮し、経費削減効果とサービスレベルの低下のバランスをもう一度検討する必要がある。



(6) HPの認知ー利用者とのコミュニケーションの道具としてのHPは役に立っているのか

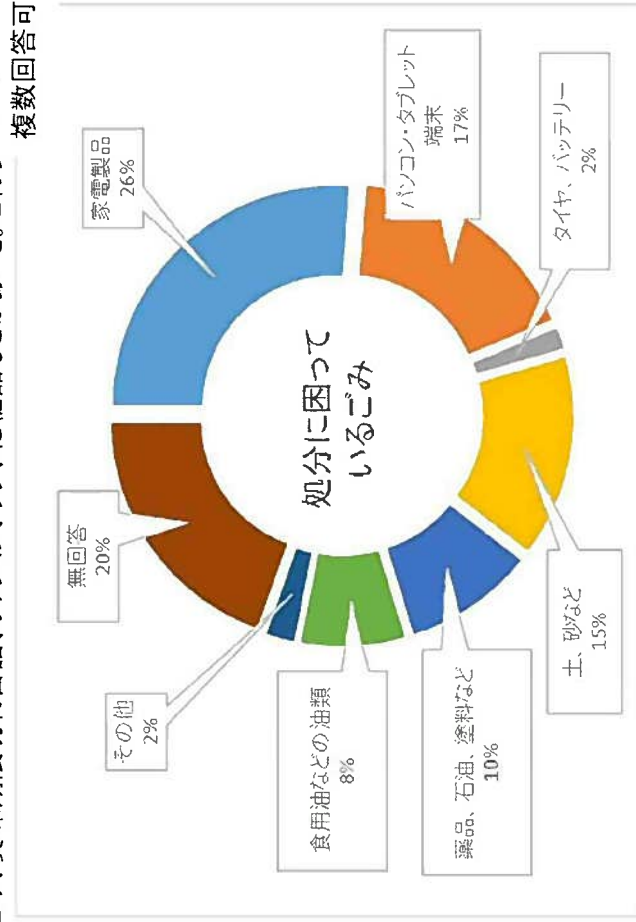
(1) 下記のグラフが示しているように利用者の会のHP、市のHPどちらも一定の認知(利用者の会 25%、市 21%)はあるが、全体として70%以上の人があまり知らない又は全く知らないと答えており、HPでの情報伝達は限られている。HPは迅速な情報伝達という点では優れているが、芦屋・南芦屋浜では高齢者が多く、自宅PCそのものを利用できる環境は少なく、利用者にはHPの以外でも正確で迅速な情報提供が必要となる。また、アンケートに書いている利用者のコメントを読んでも、適切な情報が届いていないと考えられる意見があり、その原因はパイプライン施設に対して不十分な情報や間違った情報をもとに判断をしていると考えられる。

(2) そこで、今後も利用者への適切で正確な情報提供の手段として、重層的な手段でコミュニケーションをする必要がある。具体的には、投入口を使得の提供、住居への直接チラシ配布(例: 芦屋パイプライン通信など)、自治会や管理組合を通じての情報提供などに今以上取り組み必要がある。



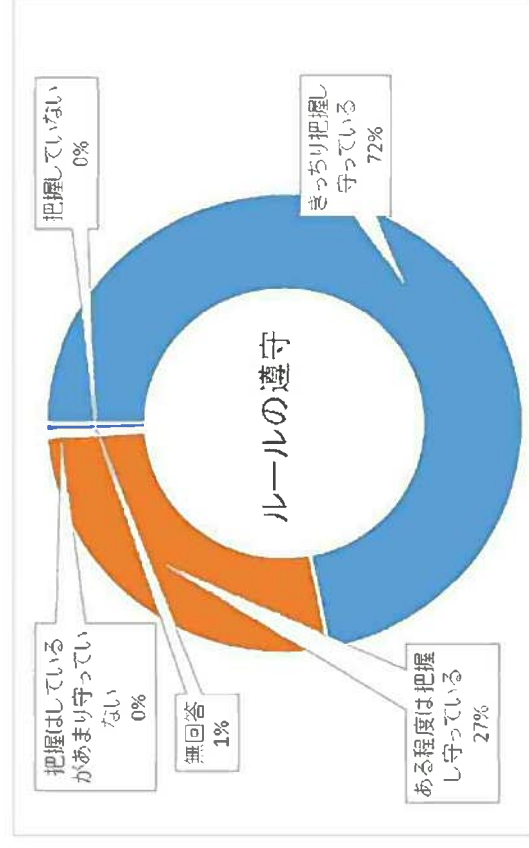
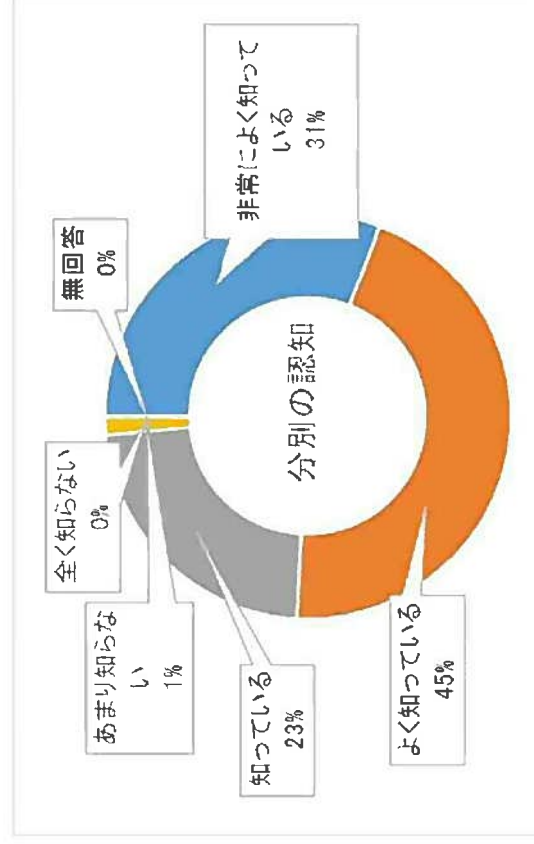
(7) ごみ一般に関する調査

1. 利用者が処分に困っているごみとは
 - (1) 今回のアンケートでは、利用者が「処分に困っているごみ」とはどんなものを調べた。①家電製品が一番多く26%(449件)を占めている。次に、②パソコン・タブレットが17%(299件) ③土・砂が15%(255件) ④薬品・石油・塗料などが10%(167件) ⑤食用油などの油類が8%(132件)となっている。
 - (2) その他の困っているごみとしては、電池、中身が残ったスプレー缶・ヘアースプレー・ガスボンベ、家具(1人で運べないものすべて)、使用しない古着・洋服等、プロック、オモチャ、健康器具、寝具・カーペット類、プラ、スチール、中身が残っている容器、書籍・新聞が高齢者には移動が重荷、化粧品類のビン(油あり)、花瓶、自動車用緊急保安筒、消化器、発泡スチロール、鉢植え、化粧箱類、自転車、古い携帯電話、本・ビデオテープ、石、プロパン、香水、学校の教材、30cm 超えの燃えないごみ、賞味期限切れ缶詰、クッション、ラグ、化粧品などがあつた。これらの多くは「家庭用ハンドブック」に書いてあるが、それがどこに書いてあるのかを探し出すのが大変だと思われる。
 - (3) これらを解決するには、①「家庭用ハンドブック」のごみ別検索機能の強化(例えば神戸市のHPにある「ごみと資源のワケト ン分別徹底サイト」等) ②容器に残っている中身の処分方法の具体的な説明、特にスプレーの中身(ガス)を家庭内で放出することは心配だと思われる ③高齢化にともない、不要になった大型ごみを回収場所まで移動することが困難な世帯が増加してきている。そのため、具体的な対策(例えば、自治会や管理組合への相談、有料であるがシルバー人材の派遣などが必要となる。④市が各住戸へ配布している「家庭用ハンドブック」にはごみの区分からは探しやすいが、ごみそのものを直接調べたいとの要望がある。例えば「針金のハンガー」をどのように捨てるかを探する場合、ハンドブックでは見つけることが難しい。見る人の視点からの探しやすいの検討が必要と思われる。
 - (4) そのため、WEB 上での「ごみ検索システム」を利用者の会で開発し、個人や団体(自治会・管理組合)や多言語が表示できる検索システムの構築を予定している。



2. ごみの分別について

- (1) パイプライン導入当初は分別という考え方がなく、なんでも捨てられるということで、利用者もその考え方に従って、ごみを分別することなく投入口に捨てていた。しかしながら、その後、ごみの資源化という国の基本方針が決められ、利用者も分別を考え、ごみの捨て方、利用者自らがルールに従い、ごみの分別をおこなない、投入口にごみを捨てなくてはならなくなった。このように分別に関するアンケートを実施したが、①非常によく知っているが 31%、②よく知っているが 45%、③知っているが 25%で「分別の認知」についてはほとんどの人が分別を知っている。
- (2) 数は少ないが、1%の利用者が「あまり知らない」ということで非常に少数ではあるが、アンケートを答えていない人も含めて、このような人がパイプラインの詰まりの原因の一つになっているかもしれない。
- (3) 「分別のルールを遵守」しているかどうかは、99%が遵守しているとの回答で、このアンケートに答えている人は問題がない。



(4) 分別を徹底するために「説明会を開催する」必要があるかどうかを調べたが、64%に人が「必要がない」と答えている。その理由は、パイプラインを詰まらせるような人は、説明会を開催しても参加しないとの意見が多かった。

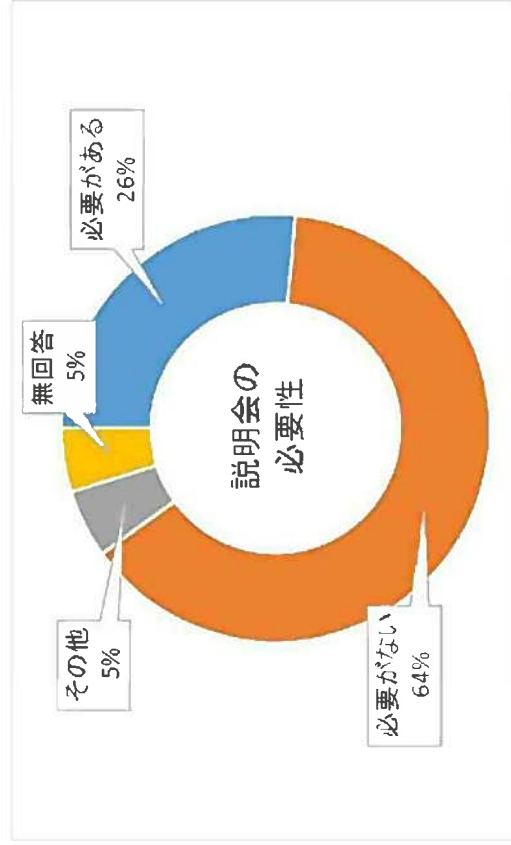
(5) このことを踏まえると、説明会は必要ではないが、「家庭用ごみハンドブック」などで啓蒙活動を継続的に必要がある。

(6) そこで、下記の2点がアンケート回答者から提案された。

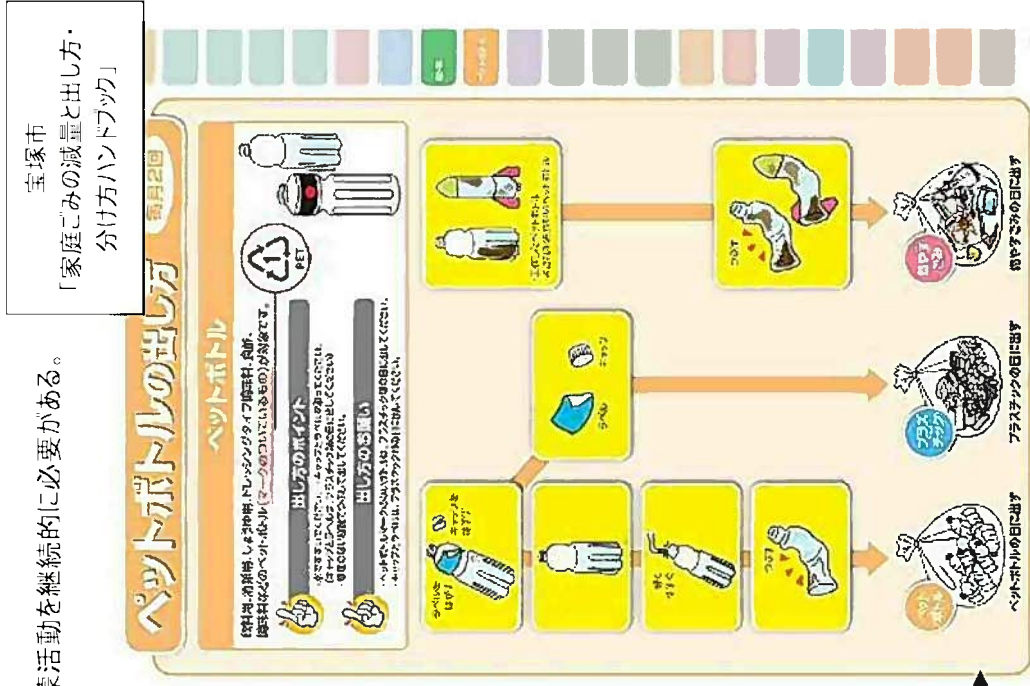
(7) 新しくこの地域に住む人にはパイプラインの事も含めて説明が必要であること。

(8) 説明書(例：家庭用ごみハンドブック)説明文は絵や図解を多くして、文字の大きさも変更して高齢者や外国人にも直感的にわかるものにする必要がある。(参考：宝塚市「家庭ごみの減量と出し方・分け方ハンドブック」)

(9) なお、芦屋市の「ごみの収集方法に関する市民アンケート調査(平成27年)」(右図)は、92%の回答者が「分別をしっかりと行っている(そのとおり)。(ややそうだ)」で、同じ傾向を示している。

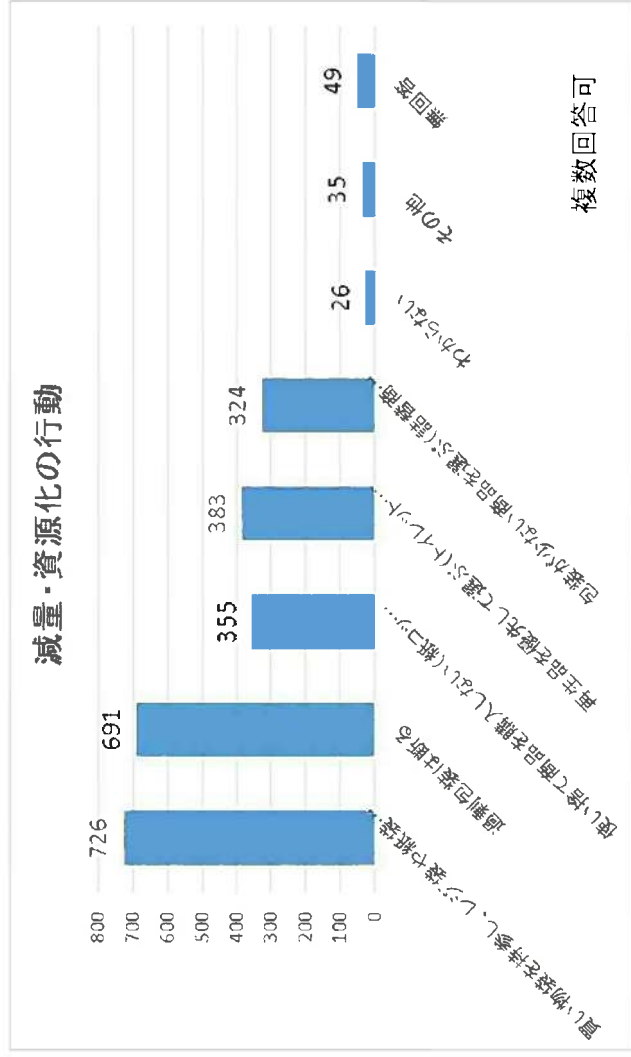
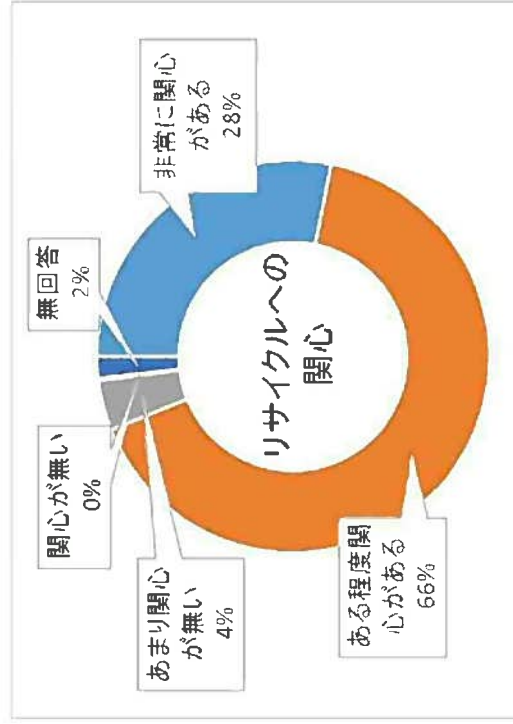


大きな図解で説明

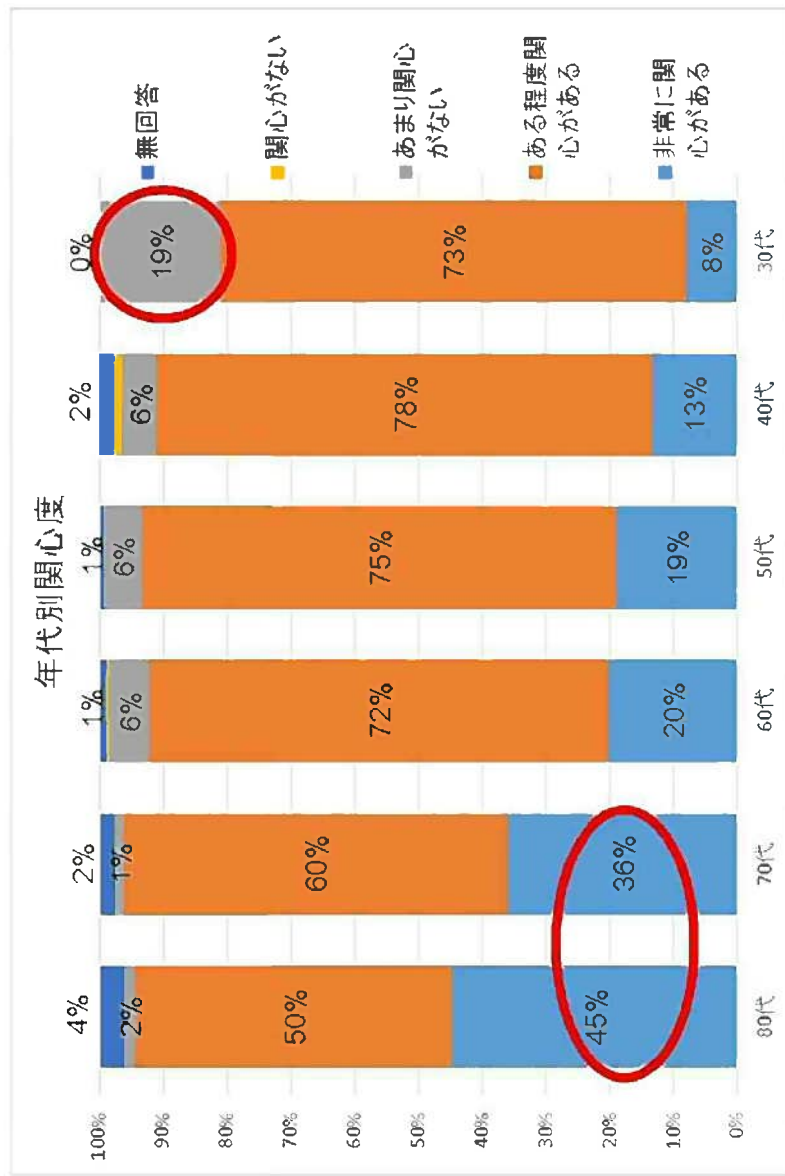


3. ごみのリサイクルについてー資源化に興味があるのか、そのために利用者はどんな行動をしているのか

- (1) リサイクルへの関心は、非常に大きいものがある。「非常に関心がある」が28%、「ある程度関心がある」が66%と合計で94%を占めている。
- (2) 具体的な減量・資源化の行動としては、①「買い物袋や紙袋はもらわない」が726名(28%) ②「過剰包装は断る」が691名(27%)と全体の55%を占め、多くの利用者がすでに実行している。③「再生品を優先して選ぶ(トイレットペーパーなど)」が383名で15%、④「使い捨て商品を購入しない(紙コップ・割り箸など)」が355名で14% ⑤「包装が少ない商品を選ぶ(詰替商品・量り売り食品など)」が324名で12%を占めている。これらは資源化や減量化に高い意識を持っている人が実行していると考えられる。
- (3) これ以外にも、ごみの資源化・減量化については、対策を広げる具体的な方策として、①生ごみは捨てる前に水分を切る ②堆肥化する ③野菜などは無駄なく使い切る ④食べ残しをしない等、日常生活に根ざした習慣を変化させていく、具体的に細かい方策の検討が必要となる。



- (4) 「年代別のリサイクル関心度」では、30代では「非常に関心がる」と「ある程度関心がる」の合計で81%と高いが、他の年代に比較すると、「あまり関心がない」が19%ある。この年代が一般的に仕事や子育てに忙しく、リサイクルに関心をもつことは難しいかもしれない。
- (5) 逆に、80代以上や70代はリサイクルに非常に関心がある人がそれぞれ45%、36%を占めておりこの地域に住む高齢者のリサイクルに対する意識は非常に高い。



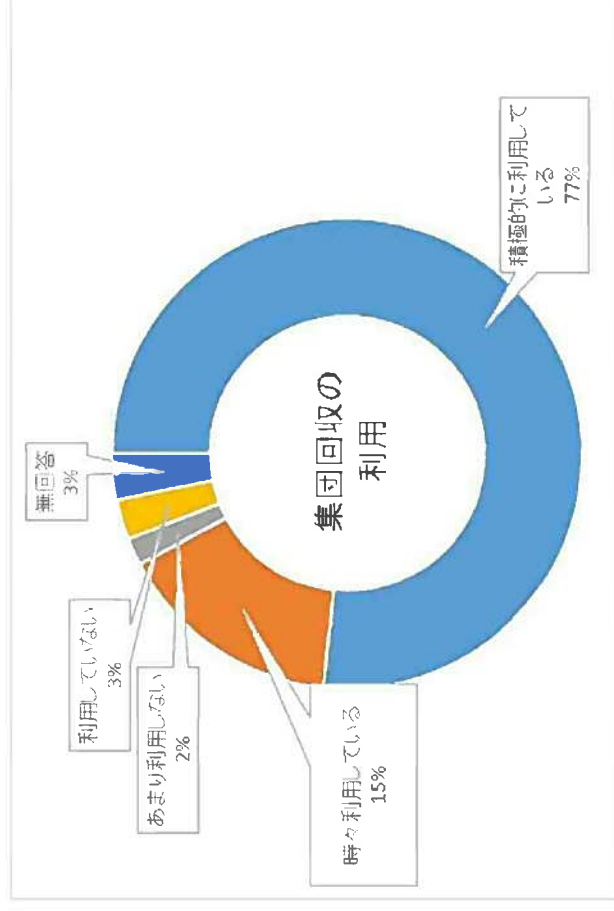
4. 集団回収の状況

(1) 集団回収は住民が参加できる「ごみの資源化」のキーポイントになるが、今回のアンケート調査では多くの地域で集団回収を実施していると考えられる。積極的に集団回収を活用している世帯が77%で全体の3/4あり、時々利用している世帯を含めると92%となる。2月の廃棄物原料推進審議会で、芦屋浜・南芦屋浜地域は、芦屋市の他の地域よりも集団回収量が多いとの説明が市よりなされたが、納得できるものであ

る。
(2) アンケートのコメントからわかったことは、「あまり利用していない」、「利用していない」は、「集団回収制度」そのものを知らない、又は自分の地域が「集団回収を実施していることを知らない」ことであった。

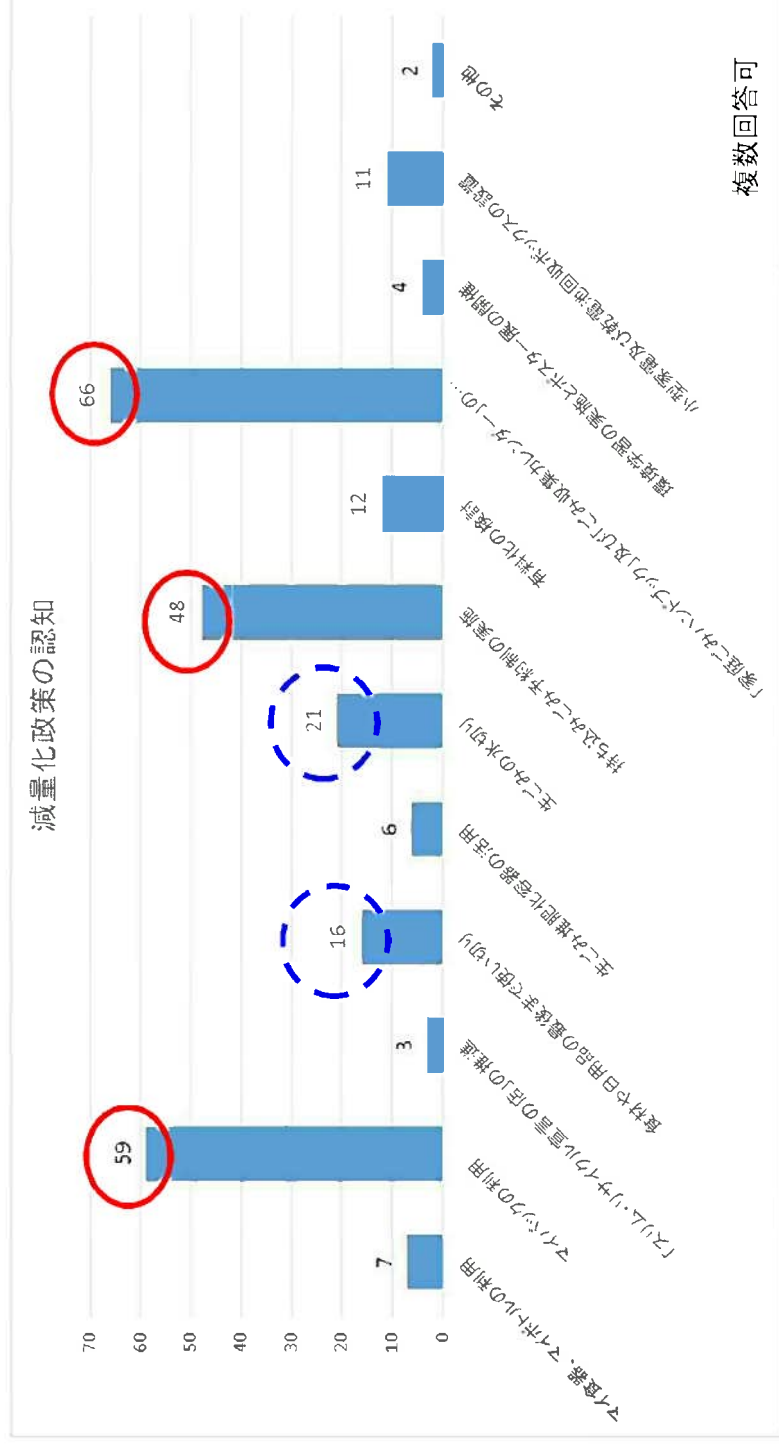
(3) 超高齢化にともない、集団回収の量は今後減少していくと考えられる。問題点としては、「世話人の減少」と「荷物を運べない」ことや「若い世代の参加の促進」等の課題があり、そのために、若い世代のための考慮（土日でごみを整理して月曜日の回収に出す等）、回収頻度の増加（毎週化）、常設保管庫の設置、周知徹底およびパンフレットなどの配布などの対策を集団回収に登録しているそれぞれの組織（自治会・管理組合）で検討しなければならぬ。

(4) 市の対策としては、集団回収への認知を向上させるために、「家庭用ハンドブック」の「再生資源集団回収制度」の説明量の増加やHPでわかりやすい説明にすること、特に、新しくこの地域に引っ越しをした時点での世帯への市からの資料配布物と一緒に配ることも大切となる。



5. 芦屋市の減量化施策の認知

- (1) 2つの組織(若葉町第2住宅、緑第4)で芦屋市の減量化施策(家庭)を知っているかを調査した(回収は117枚)。市の減量化の政策をパイプライン利用者がどの程度浸透(認知)しているかを確認するためには役立つデータと考える。
- (2) 具体的にパイプライン利用者が認知しているのは、「家庭ごみハンドブック」及び「ごみ収集カレンダー」の発行が(66名/117名)、次に「マイバツク」が(59名/117名)で、「持ち込みごみ予約制の実施」が(48名/117名)あり、日頃から身近にある政策の認知が高い。
- (3) 一方、「最後まで使いきる」ことや「生ごみの水切り」などは認知が低い。市の政策としてどの程度の認知を目指しているのか目標が定められていないので政策の評価はできないが、減量化の促進としては、この2つの政策は重要な柱と考えられるので、なんらかのさらなる情報提供や啓蒙活動が必要と思われる。



(8) アンケートの質問や要望とそれに関心する利用者の会の見解

利用者からの意見・要望・困っていることなどの総数 464 件をカテゴリー化して、それに対する利用者の会の見解を下記にまとめた。

NO	カテゴリー	利用者からの意見・要望・困っていることなど	利用者の会の見解	確認
1	パイプライン故障時の臨時ゴミ捨て場について	<ul style="list-style-type: none"> 故障時の臨時ゴミ捨て場のあり方の検討が必要。 ゴミをパッカー車で収集した場合の見苦しさを、悪臭対策、カラス等の鳥対策も合わせて考えてほしい。 故障時のパッカー車の収集で、慣れていない方で網のかけ方が徹底せず、自治会長も苦労している。 	<ul style="list-style-type: none"> ゴミパイプライン協議会で検討をする。 	
2	利用者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> パイプラインの便利さ、必要性、修理工を住民に知らせる。 お知らせは老人にわかるように印刷してほしい。 投入できない時間、曜日を投入口に明記すること。 日常的に見やすい文字・絵で表示した小冊子を配布する。 どのように分別していいのかわから分らないことがある。どこで教えてもらえるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> HP、チラシ、芦屋パイプライン通信、説明会、投入口ボード、利用者の会、メール等の多角的なメディアを利用して利用者には情報伝達をおこなう。なお、芦屋市のごみハンドブックをまず熟読してもらいたい。 	
3	外国人対策	<ul style="list-style-type: none"> 最近外国人留学生が増えているようだが、マナーが悪く、ごみを使い捨てにしているケースがあった。 説明書、パンフレット等読めない外国の方など理解できるように指導してください。 外国人異常者へのパイプライン施設の説明及び利用方法の説明を徹底的にやってもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人へのマナー問題に対して、協議会で検討をおこなう。 WEB上のHTMLドキュメントは google chrome を使うとマルチ言語化でテスト中。なお、すでに英語版家庭用ハンドブックは市から提供済み。 	
4	パイプラインの使用課金制度	<ul style="list-style-type: none"> パイプラインの使用代金月 XXXX 円を負担する。 利用者が修理費を出すなどして一戸から少しでも集めれば市の負担も少なくなる。これからも使用できるのが一番です。 ご投入の作業の費用負担は難しいのでしょうか。 パイプラインの維持費として1戸当たり毎月1,000円を徴収する考えは如何でしょうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 使用料金を徴収することは、回収方法や費用金額、未払い者への対応等で実現することは難しい。 	

5	パイプラインの廃止	<ul style="list-style-type: none"> パイプラインにはこだわらない。トラブルのたびに使えないことが多い。収集のほうがいいのでは。 税金の使用は中止し、回収車にすべきである。ただし、超高層は別考を要するのではないか。 埋設配管の取替や機器の取替を行い、正常な運用ができるようにしたいが、コスト面で無理できないとなれば、詰まりや故障の発生が多い地域は、車による回収に切替えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の利用者の要望、市の考え方、パイプライン未使用者の理解を考慮して条例化がなされ、芦屋浜地区は20年、南芦屋浜地区は32年までパイプラインを運用することが決められている。
6	不法投棄問題	<ul style="list-style-type: none"> 退去時に不法投棄しているので取り締まりをしてほしい。 家のゴミ箱を持ってきて、中身だけを投入口に捨てておられる方が多いようです。 1月4日の金属類投棄に腹立ちを感じます。缶は常にゴミステーションに出せるのに何故それをしていないのか、自分だけ良ければ精神を反省して欲しいです。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しく入居された方、退去時や死亡時のごみの処分について、ゴミパイプライン協議会で検討をする。
7	地域外の人の投棄問題	<ul style="list-style-type: none"> 外から捨てて来る人がいる。 パイプラインの前に車を止めて、車から大量のごみをパイプラインに投入されている方を見かけ、思わず声をかけた。この地域の住民とおっしゃうが、どうだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域外の人のごみ投棄の対策を利用者の会で現在検討している。
8	ごみの捨て方がわからない	<ul style="list-style-type: none"> 植木の土、電池、発砲スチロール、スプレー缶、古着、化粧品類・マニキュア、ブロック・レンガ、オイルやガスの残ったライターなど。 	<ul style="list-style-type: none"> 芦屋市の「家庭用ハンドブック」には処理の方法が説明されている。まずはこれを熟読されることを希望する。
9	持ち込みごみの制度の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 予約ではなく、免許書提示では。 他市に比べて芦屋市の持ち込みごみの値段が高い。持ち込みごみの予約はインターネット受付にしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 持ち込みごみの問題は、料金などを含めて、ゴミパイプライン協議会で検討を進めるように市に提案をする。
10	収集場所	<ul style="list-style-type: none"> 缶、瓶、燃えないごみの収集場所がわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ご自分でその地域の自治会、管理組合、UR、お隣さん等へ確認する。
11	収集時間	<ul style="list-style-type: none"> 朝の収集はともつらいです。 朝は青になるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 協議会で確認し検討をおこなう。

13	マナー問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不燃ごみ、燃やすゴミ回収日等に普通ごみを捨てる人が多く、マナーが悪くなってきた。 ・ 入口付近のリサイクルカゴに弁当が時々捨ててあり、カラスが荒らして地面に生ゴミが散らかっている事がある。 ・ ルールを守らない人達が増えきちっと包装せず何でも捨てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 啓蒙活動は、利用者の会で行うが、各自治会や管理組合など皆さんと一緒に活動をしていきたいと考えている。
14	プラスチック問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみを減らそうと思うなら、卵ケース、パック惣菜のプラスチック入れ物等、外のを考えたら良いと思う。 ・ パイプラインのレジ袋の必要性和プラスチックの整合性問題。 ・ 今後西宮市とごみの焼却について合同でやりますので積極的に廃プラのぶん別に取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の会、協議会、廃棄物減量推進審議会を通じてプラスチック問題を提案する。
15	パイプライン代替案	<ul style="list-style-type: none"> ・ やむをえず廃止ならば、1階に1箇所でもいいので、いつでも捨てられてそこに収集車がとりに来るような施設を作って欲しい。 ・ 高層住宅のゴミ集取場所があるのか、1週間に何回か心配です。継続運用できるやり方を再構築して欲しい。 ・ 詰まりや故障の発生が多い地域は、車による回収に切替えて欲しい。 ・ 地下収納式のヨーロッパ型のごみ収集方法を取り入れるべき。 ・ 住宅形態に応じた代替案を次世代の為に早く検討し方向性を出しておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パイプラインの代替案は今後検討していく。現在はまず、基本的なデータ収集からスタートする。
16	故障問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豪雨の時使えない。 ・ 投入口へキーが入らない故障。 ・ 老朽化の構造が欠点。 ・ 青ランプで鍵が入らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パイプラインは経年劣化で穴があき、台風時や合時には雨水が入りパイプラインが停止する。協議会ではこの対策を検討し、補修時間の短縮化を図っている。

17	利用者のサポート	<ul style="list-style-type: none"> 当別に管理者を決め簡単な故障(例手前で詰まっている場合など)に対応すればいいかでしょうか。そのようなシステムを用いる場合には小生は積極的に参加します。 	<ul style="list-style-type: none"> 投入口の掃除までではできませんが、故障に関しては、衛生面の問題、事故発生問題、自治会や管理組合の協力の問題を考慮すると難しい。
18	大型ごみの処分	<ul style="list-style-type: none"> 大型ゴミが重くて捨てるに行くのに困っている。大型ゴミを年2回でも出す機会を作ってほしい。 大型ごみの無料回収があったらよい。布団など。 	<ul style="list-style-type: none"> この問題はよく理解しているのですが、利用者の会で検討をおこない、協議会へ提案。
19	パイプラインの稼働日	<ul style="list-style-type: none"> 毎日使えるのは便利だが、老朽化を考えると捨てられない日があっても良いと思う。 日曜日にゴミが捨てられない。 日曜日は止めることを徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 費用とサービレベルを考慮し、協議会で再検討をおこなう。
20	パイプラインの存続希望	<ul style="list-style-type: none"> パイプラインに満足しているので、パイプラインの存続を希望。 パイプラインをなくさないでください。 市庁舎でも市営住宅でも古くなると作り替えているではありませんか。 	<ul style="list-style-type: none"> 条例で芦屋浜は20年、南芦屋浜は32年と決まったので、今後はその期間パイプラインが運用できるようにパイプラインを大事に使ってもらいたい。
21	転入者、退去者、死亡者への啓蒙活動	<ul style="list-style-type: none"> 市のゴミ分別の説明は、転入時のみおこなう。 住民届けが提出された際にその地域のシステムをきちんと説明する。 新しく入ってくる方には管理組合で説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しく転居した方、転居される方、死亡された方の遺品整理に伴うパイプライン投棄問題などへの啓蒙活動を検討していく。
22	ごみステーションの管理	<ul style="list-style-type: none"> 現在自治会の環境担当の方々が不燃ごみなどの処理をしているが全住民の輪番制にして、意識の向上をする。 古新聞など置く場所があればパイプラインに捨てないのでは。 不燃物、可燃物の収集日の前日の午後より持ち込みは可と出来ませんか？収集日当日の午前のみだと都合がつかない時は1ヶ月後になる。 	<ul style="list-style-type: none"> できるところから実現を図っていくが、一度利用者の会で検討と提案をする。なお、古新聞などの燃えるゴミを置く場所は、防火の観点から問題がある。

23	ごみステーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸市・西宮市のように種類別の箱・袋を置いてほしい。 ・ マンションの敷地内に 24 時間捨てられるコンテナなどを設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状を調査する。
24	マナー違反者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 投入口からマナー違反の人を見かけても近所トラブルを考えないと注意ができない。 ・ パイプライン投入口ヘダンボール(かなり多め)を小さくして捨てている男性を見たが、自分一人では注意しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会や管理組合で対処できるように利用者の会で検討する。
25	ごみの収集	<ul style="list-style-type: none"> ・ 燃えるゴミの回収を毎週してほしい。 ・ おむつ等でゴミが多いので燃えるごみの日を増やしたい。 ・ 燃やさないごみの搬出日を増やしてほしい。 ・ 燃やさないごみのサイズを少し大きくしてほしい。 ・ パイプラインへの投入はできるだけ生ゴミだけにしたいほうが良い。 ・ 粗大ごみの各戸への引き取りがあると便利。 ・ 油回収してほしい。 ・ ピンの日を増やしてほしい。 ・ 石の処分に困っている。発泡スチロールを捨てる時、小さく壊して袋詰めするのが大変。 ・ 夏の間は、枝は草などの収集日を増やしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋市全体のごみ収集の問題なのでこの地域だけ実施することは難しいと思われる。また他市の現状を調査し、市の見解を確認する。
26	粗大ごみ制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ シールを張っていたら持ち帰って欲しいです。連絡日を聞いて出すのは手間だと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 限られた市の資源(人・回収車・費用)でゴミ回収をしている。日程調整をしないと放置ごみの可能性が出て、景観及び火災の可能性がでてくる。
27	追加設備	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高層マンションなので下に降りないとランプの色がわからない。赤の時は上から見てわかるようにしたら便利。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自自治会・管理組合で検討することを希望する。システム A・B 棟では自分たちの管理組合で設置済。

28	高齢者へのサポート	<ul style="list-style-type: none"> ・ 援助をもう少し考えて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回のアンケートを踏まえて高齢者への短期・長期のサポートを検討する。
29	集団回収制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単行本を10～20冊いつでも出せるようにならないか。 ・ トレー等コープなど回収にもっと利用する。 ・ 新聞や紙袋など雨の日でも出ている時があります。どの程度で回収してもらえるか。 ・ 資源ゴミ不燃ゴミ等午前8:30分までになっているが、年寄には厳しいので前日の夜でも良い事にして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団回収を利用する。なお、時間に関しては各自治会や管理組合で回収業者と交渉してもらいたい。なお、前夜にゴミを捨てることは防火の観点で無理だと考えている。
30	ごみ検索システム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時々の分別で捨てるべきかわからないことがあります。スマホで検索できたら便利かな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の会で「ごみの検索システム」を開発中。
31	芦屋市のごみハンドブック	<ul style="list-style-type: none"> ・ バイク等で使っていたガソリン、灯油のあまり、使わなくなった油類。これらは是誰に捨てておけば安全上の問題があるはず。 ・ 捨てる方法をもっと検討して保存版に書くべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋市の「ごみハンドブック」を熟読してもらいたい。
32	分別問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隣接自治体(神戸市など)並の分別収集に取り組みべき。 ・ 市の分別ゴミ(PL以外)の集め方が汚い 不親切。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ処理施設の西宮市との広域化の検討結果を待つ。
33	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 午前9時からと決められているので仕事に行く前に捨てられない。 ・ パイプの塗料はいつか塗り替えるのですか。美観がよくありませんが、市側はきちんと塗り替えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状の調査が必要。

朝の定時運転の変更案について

ごみパイプライン協議会やワーキンググループで話し合いながら、様々な経費削減対策を実施しています。その検証を進めていく中で、一部地区において問題が出てきていますので、取り急ぎ他地区とバランスを取るため下記のとおり運転方法の変更（暫定運用）を行いたいと思っております。

- 1 対象地区
南芦屋浜（低層地区）
 - 2 現状
南芦屋浜の投入口地下にある貯留槽の容量が大きいことから、効率を考え定時運転には入れていない。
 - 3 問題点
日曜日に運転を停止していることから、月曜日の朝の出勤時にパイプラインに捨てることができない。
 - 4 運転方法の変更
この地区も月曜日の朝の定時運転を実施する。また、定時運転の時間が延びることから、この日の運転開始時刻を5時30分から4時30分に早める。運転は地区ごとに順番に行っていくため、全地区の運転終了は6時40分ごろと想定しています。
 - 5 経費
月曜日朝の定時運転の時間が約40分間増えるため一年間の電気代が約25万円増と試算されるが、9時以降の満杯運転が減ることになるため、差し引きすると経費増は多くないと想定されます。
 - 6 その他
 - ・朝の定時運転は、無人の自動運転で行っているため、トラブル等が発生した際に運転が途中で止まることがあります。（トラブル実績：4月3回、5月2回発生） その場合、復帰作業が9時以降になりますので、運転再開はその後になります。
 - ・月曜日は早朝4時30分に運転をスタートさせるため、運転時の騒音が懸念されます。
- ★ 日曜日の運転停止の検証につきましては、今後もワーキンググループで話し合っていきます。